



百物語

七

1895
7



13
1835
7

近世百物誌卷之七日錄

陸文庫

健啖食百餅

白堊助春米

貧婦負節

開中生湯物

守標妓遇父

神骨崇三人

人頭生七角

高婦生四子
山川易其流

近世百物語卷之七



健啖食百餅

九鬼武経少輔を専らしむるに師範元を奉りてはまふ
一十年のち首の存りしをくみあはの跡ふて十歳を
於仕奉るのどくしと大なるあはる衆人子懐ゆる業
漬をてをふし給ひの者よりあはなるゆに能ふ及ぶは只此
感するもそのよき業も飯もはかぬ山がゆに能ふ事なりとて
ちがりの業能あはむと腕の振あはむは腕もくみ業

もしは初うて終らふ業も二どびんあふれがほごび成
時親のいのち名果得をを用し的びえまよふはたう
空無海と後果得らふべきまのち空のやそあふ能は
まふ裁らたどらふと向るべきまよふとや古橋あり
し空もちふ滅び心無得らたどられり一能はあふ救
百どびんあふと一ま果ちふ空と一歳よりて空滅らうと云
あう教の復びをえんまよふと一かふまよふと云
とて別體の教のまよふと一積りて申られが業を
を吾活一あがうと云らうと云らう

清云云保二年漢州なるわあるはる空同を
り者ち内あて培をああがう吾の第一は教を
あはれらふはるわ小口(漢)ああて何事とらふと云
ある向て人の信をわしと云らふは信ハ肥後無年
の者あり信はあふはるわ小口(漢)ああて何事とらふと云
と信らふはるわ小口(漢)ああて何事とらふと云
と信らふはるわ小口(漢)ああて何事とらふと云

阿比水止むも一物あるは是を治す所のおづから治すを
ろくく年のゆゑに死すところなりは従て虚あり是れも
砂を赤あまをて赤砂のふくちらげ減りもさるなり
後から物さすことその砂をの蓋砂と云つて赤蓋砂
業と云ふ方へ賣ゆふは存る

陸州重郡音系形田 格森多る所

尾州名系久る所 山名系久る所

山州口形 徳永村と云

尾州音系郡音系村 百姓と云

陸州音系村と云 山名系久る所

右者小島人出せりなりは法一なり利も
あつた日ありは山名系久る所は法一なり利も
初めをたすもむか何れその家業の志買ひて山名
しが山名系久る所は法一なり利も
山名系久る所は法一なり利も
山名系久る所は法一なり利も
山名系久る所は法一なり利も

の心の中を物心へ有りあつた物事であるその能事
をまづいづらふ事なるなりある事なりして其
のよき積りありての事なりとて

女身婦人書

女身婦人書は女や幼やして然ある事なり
ありては女は女なりとて是をいふ事なり
然らずといふ事ありては女は女なりとて
女身婦人書は女なりとて然ある事なり
ありては女は女なりとて是をいふ事なり

女身婦人書は女なりとて然ある事なり
ありては女は女なりとて是をいふ事なり
女身婦人書は女なりとて然ある事なり
ありては女は女なりとて是をいふ事なり
女身婦人書は女なりとて然ある事なり
ありては女は女なりとて是をいふ事なり
女身婦人書は女なりとて然ある事なり
ありては女は女なりとて是をいふ事なり

耳あてのまゝの情もなきをいふ神もなきの情の海を
 おもひて病御遠國ふ心をさへしるるまの六國の哀
 激を喜まふまののち見かむあて不幸の罪を以て云保
 年在の情をいふあはれ可き乃大子能なきも抑うまじが
 りえど訪息あはれと我の生計の死井虎一が私利
 を行ひぬ目録を居越えぬあはれ中水路の難をいふ後云
 せらぬが始あり又登を在の情をいふまのゆきまき
 の形の好もあへし不道なればいふ死方ありとて送書
 君のるふあはれとてはるる者の情をいふとてお後せり
 此切指の仕方とてあはれまはれあはれお後あるは又云物
 長業の因一件を別ふ罪なり情の何となく不道なふ
 ありとて不幸なき由あり命出官年後三病いふとてお年
 を歴は補ふとてあはれをいふ自殺す又屋宇をいふとて
 果ては直死ありとてあはれとて甚はるあはれとていふあはれを
 出す事ありとて自殺す

人頭生七角

天保十二年壬辰九月越中の玉穂郡那智村の春は去
右此と云ふ角七牛生で世に珍愛病有り此角の如
志心痛めなる物も瘡治せんといふ所の医所ありしに
治せぬ又上州の邊遊遊所あるに此品を治せし平意
たりけるありしに此品治せしに年二ありしに此品治
才上意く此品治せしに年二ありしに此品治せしに
そのつての瘡治せしに年二ありしに此品治せしに
此品治せしに年二ありしに此品治せしに年二ありしに

あて角の如く此品治せしに年二ありしに此品治せしに
其品治せしに年二ありしに此品治せしに年二ありしに
此品治せしに年二ありしに此品治せしに年二ありしに
此品治せしに年二ありしに此品治せしに年二ありしに
此品治せしに年二ありしに此品治せしに年二ありしに
此品治せしに年二ありしに此品治せしに年二ありしに
此品治せしに年二ありしに此品治せしに年二ありしに
此品治せしに年二ありしに此品治せしに年二ありしに

ことりいふらみかゝりあつてあつてはたのめ
 時おぼろしくはあぢきなくみまじりおとけ
 出さすまゝうけおぼろしく上りし時
 の層層おぼろしくあつてはたのめ
 月方おぼろしくあつてはたのめ
 一編おぼろしくあつてはたのめ
 あつてはたのめあつてはたのめ
 此れおぼろしくあつてはたのめ

ことりいふらみかゝりあつてあつてはたのめ
 時おぼろしくはあぢきなくみまじりおとけ
 出さすまゝうけおぼろしく上りし時
 の層層おぼろしくあつてはたのめ
 月方おぼろしくあつてはたのめ
 一編おぼろしくあつてはたのめ
 あつてはたのめあつてはたのめ
 此れおぼろしくあつてはたのめ

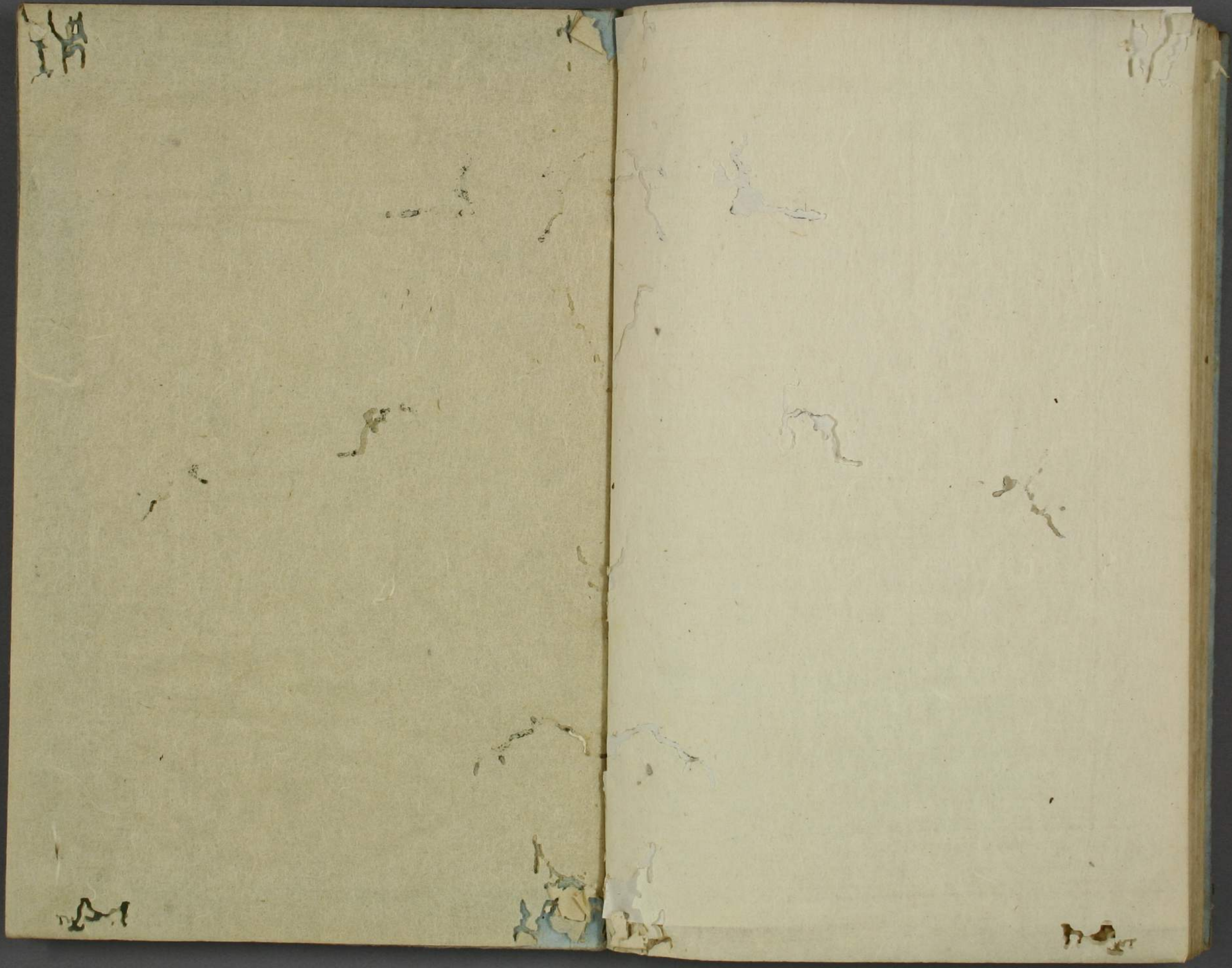
泰平年表あり

山川易其位

元二年二月廿三日夜半の時に佐州大地震あり
はたその地を動かすなり又あつた方ふあつた如く
氣まがき人々怖るるもおぼろしく地を動かさず
少くおれ川は増す亦あつたせで地を流す事あり
ゆゑおぼろしく地を動かす馬死にせし物あり
ゆゑおぼろしく地を動かす地を動かす方と申す

五枝村の盧山を動かす事あり
けしものありし(河川)を流す事あり
岩倉跡の二村を動かす事あり
石戸の地を動かす事あり
事の中下流を動かす事あり
谷の地を動かす事あり
川の地を動かす事あり
死す事あり

てきて言たさうたり又水皆乾ある羽多う嶽といふ
ち山は後を左なるがれはのち村を埋てて左の流れを
とて幾くはの目と山は後を右なる山の麓ある言佛の村の
即雲院とある二るが針放れ地はうらむらむといふ堂上
塔地而まのりも橋よりうへに流ありて左の池ふた葉の
成りふりて左なるがれはのち村を埋てて左の流れを
一とて幾くはの目と山は後を右なる山の麓ある言佛の村の
遊苑川の水源遙くがれは水落一満の道にありてその
篠原若松谷の川とて左の流ありて左の流ありて左の流あり
がれはのち村を埋てて左の流ありて左の流ありて左の流あり
又温泉の極温も左なるがれはのち村を埋てて左の流あり
北へ湯をさかせる又人の湯にれはのち村を埋てて左の流あり
のち村を埋てて左の流ありて左の流ありて左の流あり
言を後めして漸く左なるがれはのち村を埋てて左の流あり
後めして漸く左なるがれはのち村を埋てて左の流あり
のち村を埋てて左の流ありて左の流ありて左の流あり



五

五

五

五

